

毎週 水曜発行

(8月から週 1 回発行となりました)

復興ニュース

38号
2011年
8月17日

発行：気仙市民復興連絡会

大船渡市末崎町字石浜 34-1

<http://kesen-chiku.ecom-plat.jp/>

Twitter @KesenShiminFR

<https://www.facebook.com/kesenfukko>

三陸海の盆・送り火、 蠟燭で「わすれない不忘 3.11」と。

8月16日(火)、大船渡市・門之浜海岸で三陸海の盆送り火を開催しました。地元の青年方を含む実行委員会と支援団体のご協力により 18:50 開会挨拶で開始。黙禱、念仏、詩吟、そして犠牲者を悼む念仏踊りの赤沢鎧剣舞で会場は盛り上がり、犠牲者のご先祖、そして参加者が一体となって鎮魂と復興を祈った。会場には予想を上回る約 600 名以上の参加者で溢れました。

灯籠や短冊へは想いや願いを書き、会場には竹筒蠟燭を並べ“不忘 3.11”と、これから先ずっと、3月11日のことは、忘れない・忘れまいという想いを灯しました。

参加された方のなかには、家族などを亡くされた方も多く、『今日がひとつの節目になりそう。区切りをそろそろつけなければ…』とっていた。来てよかった。』と話される方も。

おわりに打上げ花火、参加者全員で線香花火を行い、閉会を終えた後も、皆、思い思いの時を過ごしていました。

尚、この線香花火は「大江戸牡丹」という純国産のもの。贈呈は東京都台東区山懸商店さんです。また、打上げ花火は愛知県安城市の石川煙火さんから贈呈されたほか、匿名での寄贈もあり、開催を応援いただきました各位・団体に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



【主催】三陸海の盆送り火開催実行委員会

【共催】岩手県沿岸広域振興局、末崎地区公民館、全国ふるさと大使連絡会議・NPO 夢ネット大船渡
NPO 法人 遠野まごころネット、AmereiCares

【後援】大船渡市、東海新報社、NPO 法人 ジャパン・プラットホーム

【協力】大船渡市消防団



末崎町のある地区では昔から海に仏様を送る習慣がありました。夜には子どもたちが麦わらを担いで浜辺へ繰り出し、送り火を炊きました。明るくすることで仏様が道に迷わないようにとの思いだったのかもしれませんが。それがいつの頃からか、火災が危険との声や麦耕畜する家も無くなり、送り火の風習が消えてしまっていました。多数の命を巨大津波に奪われたいま、鎮魂と復興の誓いを新たに、被災の記憶を風化させない決意と、地域コミュニティーの再生を目指して、送り火を復活させたいと願います。送り火の復活は人間復活でもあるのです。

写真は鈴木大船渡地区公民館長を中心に
NPO 夢ネット大船渡の会員等



自転車30台寄贈 (今後毎月) 東京調布ライオンズクラブから

さんりく・大船渡ふるさと大使の千田俊章氏のご尽力にて、千田氏が住む東京調布ライオンズクラブのご配慮で、8月から毎月自転車約30台ずつ気仙に贈って頂くことになり、その第1便が8/10(水)大船渡地区公民館へ届きました。調布市内の駅前の放置自転車を調布市が回収し、一定期間保管し持ち主のない自転車を、同クラブが修繕し輸送費を負担して贈ってくれるものです。

気仙地域の受入れはNPO法人夢ネット大船渡が担当し、8月は大船渡地区公民館へ、9月は米崎町コミュニティ推進協議会へ届ける予定。

10月以降も、順次受入れ先を決めて届けます。

受け取った自転車は、それぞれの町内の希望者へ(先着順等)お渡しするもので、12日午前10時から、希望者へと自転車の引き渡しを行いました。

喪失体験と悲嘆ケア 講演会に89名が参加

震災から5ヵ月が経過した8/11(木)、気仙教育会館にて高木慶子先生(生と死を考える全国協議会会長)の「天災・人災の渦の中で、生きる希望を探す」をテーマとした講演会が開かれました。

普通に、「行って来ます」と別れた人が、「思いがけない姿で再会する」との悲嘆の体験、こんな苦しみを味わなければならぬのか等々。

「悲しんでいいんだよ」、人間は心の中にいっぱい苦しみがいっぱいある」、それを語るにより心が整理され生きる希望が湧いてくる等々、分かりやすく話された他、様々な被災体験や悩みを語り合う懇談会が設けられました。

【主催】おおふなと男女共同参画[うみねこの会]

【後援】大船渡市、大船渡市教育委員会、NPO法人 夢ネット大船渡、男女共同参画サポーター会 気仙ブロック
(株)岩手日報社、東海新報社



これからのイベント開催情報

☆ ラベンダーコンサートと香り袋作り体験会 (ソプラノ歌手;土井尻明子さんの歌声は必聴です!)

【日時】8/18(木)、19(金)各 13:30~ 世界の椿館・碁石 ※参加無料

【主催】LavenderWind ネットワーク 問Tel0192-29-4187(世界の椿館・碁石)

☆ 映画[大地の詩]無料上映会 (俳優:村上弘明さん(陸前高田市広田町出身)が来場します!)

【日時】8/20(土)18:00 開場 第一中学校体育館 <大船渡市立根町字宮田 86 番地>

【主催】NPO法人トータルケアセンター 問Tel053-414-5202

☆ 東北復興支援熱気球体験搭乗会「空を見上げて」※先着受付 500名程度(当日 6:30~受付)

【日時】8/28(日) 6:30~ 岩手県大船渡市盛町 盛川河川敷サッカー・ラグビー場

【主催】NPO法人 熱気球運営機構 問Tel042-394-9078



※お問い合わせは、各主催団体までお願いします。

地の森団地「納涼会」

8月13日午後3時30分から、地の森団地仮設住宅で「納涼会」が開かれ、入居者は勿論のこと、近隣の住民も参加し、楽しいひと時を過ごしました。この納涼会は地の森団体自治会（清水正悦会長）が主催、NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパンと学校法人青山学院の共催にて開催したものです。



西山謙一さんの開会挨拶後、共催のチャイルド・ファンド・ジャパンの船戸さんは『4月から大船渡市に入り大学生と一緒に聞き取り調査を行い、コミュニティ形成の重要性を痛感しました。今夜は、入居者や近隣の方とともにスタッフも一緒に楽しみたい。』と挨拶され、青山学院の伊藤先生からは『ベンチを作り始めて1ヶ月ほど、青山学院は幼稚園から大学まで25,000人が学んでいる。約250人の学生の実家が被災し、今年入学予定の1名が亡くなりました。』との挨拶があった後、お楽しみの納涼会が始まりました。

『椅子に座って交流の姿を見てうれしい。』

青山学院大学2年生の永田光央さん（神戸市出身）は、『7月13日より交替で積み上げてきた支援の通過点として、住民同士の交流の姿を見てうれしい。入居者の4割ほどの方が来ていないので、次の機会にどう呼びかけるかが課題です。椅子とテーブルを90個ほど手づくりし、内地の森団地には26個、椅子に座って話がはずんでくれてよかった。』とコメント。



『自宅被災者へも情報を』

交流会に参加した近所に住む田中和子さんは、『今日の納涼会へ孫と一緒に来た。案内を受けてうれしかった。被災後知り合いも各所にバラバラ移り、今日は懐かしい顔を見ることが出来ホッと安心した。私のように自宅を修繕して生活をしている被災者へは、救援物資も情報も少ない、仮設住宅入居者だけが被災者でないので、回数は少なくとも情報がほしい。』との声を受けました。



“茶屋前会”を結成

茶屋前に住んでいた浜田均さん（現在、地の森団地に入居）は、毎年、茶屋前では「納涼会」を開いていたので今日の納涼会に参加し茶屋前納涼会を思い出した。被災後、茶屋前に住んでいた方々が集まって「茶屋前会」を結成したそう。

年に1～2回集まることにしたが、「もっと集まろう!」との声もあるそうです。

清水会長(地ノ森団地自治会)から感謝の言葉、自治会から感謝のしるし。

納涼会の締めくくりには「ビンゴゲーム」が行われ、参加した全員にうれしい賞品が渡されました。最後に、清水会長がマイクを取って、今日まで多くの方の支援と、今日の納涼会開催の協力への感謝を述べ、感謝の印として特製の「手ぬぐい」が、チャイルド・ファンド・ジャパンと青山学院へ贈られました。この手ぬぐいは気仙地域の町名とともに“ありがとう”とプリントされているもので、受け取った者にとっては、ある種の【勲章】となるのではないのでしょうか。

— 編集後記、徒然 —

気仙市民復興連絡会 広報担当: やまぐちなみ

震災が生んだのは、別れだけでなく“ご縁の糸”広がる輪。

今回の編集後記、徒然は、永沢(大船渡中)仮設住宅にお住まいの平山睦子さんからお聞きしたお話を。



『うれしいよね!』 平山睦子さん

『見てほしいものがあるのー♪』と、嬉しそうに声を弾ませる平山さんのお宅にお邪魔すると、色とりどりのビーズ細工のアクセサリーがいくつもありました。それはそれは、とってもカラフルでかわいい。ピアスやストラップなど全てが手作り品。「これ、どうしたんですか?」と尋ねると、『前にね、ボランティアで来てくれた方のお友達が作っておくって下さったの。』と、満面の笑み。

『嬉しいよねーここゆうのほんとに。ありがたいよね。』って。

このとき私は思いました…。ボランティアで来ていた人が地元に戻

った後、被災地のみなさんの話をしているんだなって。そしてその話を聞いた知人や友人が“なにかをしたい”という気持ちになっていくんだなって。あるひとつの人と人のご縁から、そのまた知人・友人・家族へとご縁の糸はのびていくんだなって。私も地元に戻ったら皆さんの話をいっぱいしたいって思いました。今回、平山さんにビーズのアクセサリーを届けたのは、愛知県みよし市在住の矢端緒里恵さん。品物とともに添えられていた手紙には『また作りためて送りますね』の言葉。今後もこのご縁はずっと続くのでしょね。

連絡会からのお知らせ

気仙市民復興連絡会では気仙地域における活動団体等の情報収集・発信(助成金情報提供等)を行っていきます。情報を発信したい等、相談等の窓口としてお気軽にご利用下さい。

広報活動のお手伝い(取材)も行かせていただきます。お気軽に広報担当までお尋ねください。

◆ 本紙(復興ニュース)の入手方法についてのご案内 ◆

発行は毎週水曜日です。配布(掲示)場所は下記のとおりです。(8/17 現在)

御協力いただいている店舗さま・関係者各位さま、いつもありがとうございます。

【復興ニュース配布場所】(順不同・敬称略)

(陸前高田市) 陸前高田市役所(1階ロビー)／獺沢団地仮設住宅(モビリア)全60戸
マイヤ米崎出張販売所・相野果樹園跡(お花コーナーの後方)

(大船渡市) 大船渡市役所〔受付〕から左に進んだ左手棚／カメラアホール[大船渡市盛町](1階ホール)
大船渡地区合同庁舎(1階ロビー、1階売店)／大船渡社会福祉協議会(ボランティアセンター)
サン・リア(1階昇りエスカレーター横の棚)／リアスホール[大船渡市](警察官詰め所横の棚)
薬王堂大船渡盛店(レジ裏お知らせコーナー)／薬王堂大船渡店(レジ横L字カウンター端)
マイヤ大船渡インター店(レジ後方ガラス窓沿いのカウンター)／YSセンター(情報コーナー)
福祉の里(情報コーナー1階ロビー)／喫茶・ロリアン[盛町]／ダイマル店頭[盛町商店街]
佐々木荒物店(レジ横[大船渡市盛町商店街])／千田薬局[三陸町綾里]
地ノ森団地仮設住宅 全72戸／鳥沢団地仮設住宅(蛸ノ浦小学校) 全47戸／
黒土田団地仮設住宅(綾里中学校) 全90戸／永沢仮設住宅(大船渡中学校) 全137戸

(住田町) 住田町役場／住田町仮設住宅 [本町団地全17戸／中上団地全63戸／火石団地全13戸]
住田町ボランティアセンター(大股地区公民館)

※上記一覧にない一部仮設住宅へも臨時投函させていただくことがあります。

[復興ニュース]第38号 2011.8.17.

発行 : 気仙市民復興連絡会

Tel&Fax 0192-47-3271

または広報担当携帯/090-5456-9417(山口<奈>)

kesenshimin.f.r@gmail.com <http://kesen-chiku.ecom-plat.jp>

【印刷ご協力】住田町役場 …ありがとうございます!